

# 麻雀人生

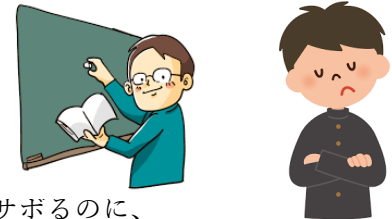
加藤 誓 (ちかい)

昭和34年高校1年生の夏、中学の担任の先生から、19時に中学の宿直室に同級生2人と一緒に来るようにと。その時初めて「麻雀」というゲームを知った。それから、担任の先生の宿直の日は、いつもお呼びがかかった。

先生の暇つぶしに付き合うのだが、やるほどに面白くなった。

夜の外出だが、両親は先生のお呼びだからと安心をしていた。

この先生からは「囲碁」も教わった。この2つのゲームは、



「麻雀」は 大学の授業や会社の仕事をサボるのに、

そして先輩、同僚、後輩との親睦や交流に役に立つ 最適なゲームであった。

どこかの検事長と新聞記者の賭け麻雀のニュースが話題となったが、

世間では、麻雀は若干の掛け金を含め「チョイ悪ゲーム」の風評がある。

それがかえって、麻雀仲間としての意識をより高めているのかもしれない。

朝10時、藤が丘の「麻雀 国際」に静岡の藤枝から、また三重の津市からそして、もう一人の名古屋 の元会社仲間を迎えゲームが始まった。

10数人以上いた 名古屋定例会メンバーの 最後の4名である。

「おばちゃん、生ビール大！」藤枝が、叫ぶ。

彼は、その後18時まで13杯飲み続けるのである。

もう一人名古屋が「ウィスキー、水割り！」

津市が「冷酒！」私も「焼酎、ロック！」と皆負けてはいない。



もう一人名古屋が 突然真面目顔で「昨日、錦三のクラブに行ったらね。」と話しかけてきた。

ハハーン、彼は聴牌 (てんぱい：上がりできる体制) したのだ。

津市が急に早く牌を強く捨てた。彼も、間違いなく、聴牌したのだ。

昔から「聴牌たばこ：聴牌するとたばこを吸うくせ」は有名である。

考え込んだり、軽口をたたいている間はまだ聴牌していないのだ。

いつものメンバーだと、これらの癖を観察すれば勝つ確率はグーンと上がる。

ただ、自分の癖は分かっていないし 教えてもくれない。

藤枝が、トイレに行った。大ジョッキー3杯目からは、直ぐトイレ、トイレでゲームが中断。

もう一人名古屋も利尿剤服用中のため、又トイレで ゲームが中断。

津市が「もう、二人とも 尿瓶 持参せよ！」といいながら連れション！

ワイワイがやがや！ この1ヶ月で得た 仲間の情報や

元の会社の人事情報などを自慢げにしゃべる。 たわいもない話に花が咲く。



18時からは、別席で酒付き夕食とカラオケ付スナックのはしご。

藤枝の最終電車に間に合う22時まで皆、付き合う。

毎月1回の楽しみな日で、あった。



昨年の秋、津市の奥さんの体調が悪くなり、もう一人名古屋は持病の 慢性心不全の症状が進み休会をしていたが、とうとう藤枝が、酒以外の病気で5月末に亡くなってしまった。

仕方なくインターネット麻雀をしているが メンバーの癖も、トイレ中断も、バカ話もなくつまらない。

コロナ禍で麻雀は禁止となっているが、禁止でも休会でもなく、定例会が なくなったのだ。

どうしよう . . . .

